

板橋宿不動通り地区景観まちづくりプラン（素案）



もくじ

1. 板橋宿不動通り地区景観まちづくりプランとは

(1) プランの目的	P.1
(2) プランの性格	P.2
(3) プランの位置づけ	P.2
(4) プランの対象範囲	P.2
まちの成り立ち	P.3

2. 地区の現況における魅力と課題

(1) 現況の把握	P.5
(2) 意向の把握	P.7
(3) 板橋宿不動通り地区の「魅力」と「課題」	P.9

3. 景観まちづくりの方向性

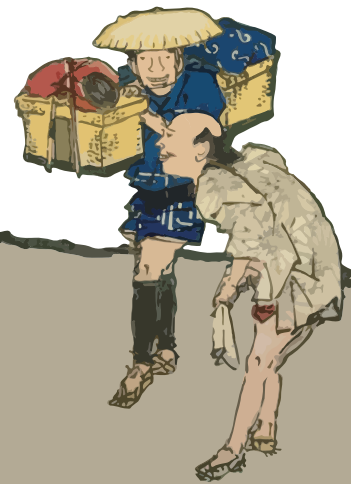
(1) 将来のまちの景観の方向性	P.10
(2) テーマ別の方向性	P.11

4. 景観まちづくりの具体化に向けて

(1) 資源を活用した景観まちづくり	P.12
(2) 自ら取り組む景観まちづくり	P.13
(3) 協働による景観まちづくり	P.14
板橋宿不動通り地区景観まちづくりルール(案)	P.15
(4) 板橋宿不動通り地区のPR	P.17

5. 景観まちづくりの記録

(1) プラン検討の経緯	P.18
--------------	------



1. 板橋宿不動通り地区景観まちづくりプランとは

(1) プランの目的

板橋宿不動通り地区は、中山道第一の宿場町としての歴史を有しています。

また、平成 27 年には無電柱化が実現し、快適な歩行空間と青空が印象的な商店街の景観が創出されています。

一方で、空き店舗が点在し、高層マンションや住宅等への建て替えが進行するなど、まちなみの連続性が失われつつある現状も抱えています。

このため、商店街や地域にお住まいの方と一緒に勉強会で話し合いを行い、将来めざしたいまちの景観イメージや方向性を定め、地区全体の景観まちづくりを推進するための計画として本プランを策定します。



板橋宿不動通り商店街(平尾追分付近より)

(2) フランの性格

将来、「板橋宿不動通り地区の景観」がこうなってほしい!という地域の思いを形にし、実行していくための計画です。



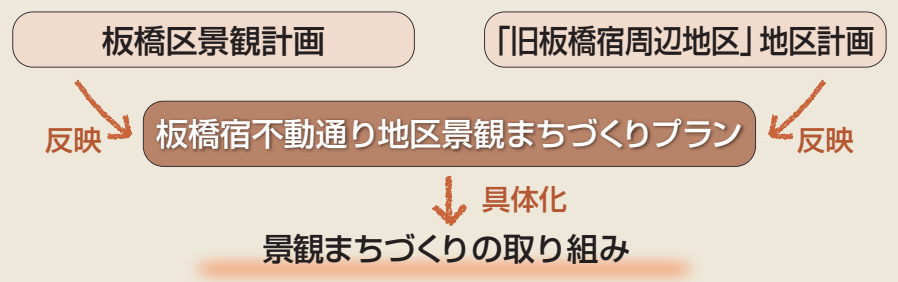
第2回勉強会でのワークショップの様子



第3回勉強会でのワークショップの様子

(3) フランの位置づけ

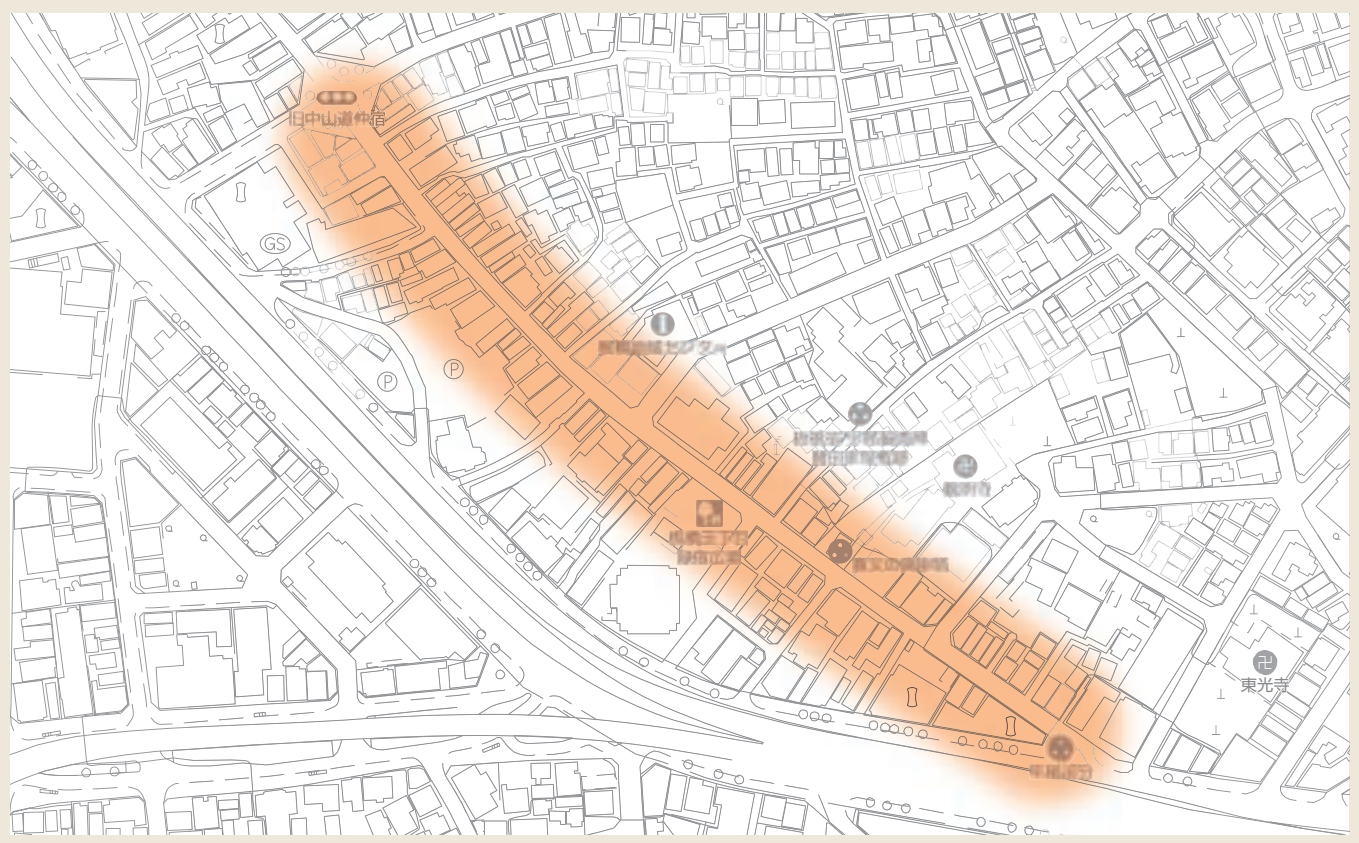
本プランは、板橋区の計画を踏まえたうえで、当地区の景観まちづくりに取り組んでいく基本的な考え方と事業の方向性などを位置付けるものです。



本プランと板橋区の計画の位置づけ

(4) フランの対象範囲

板橋宿不動通り商店街を基本とします。



板橋宿不動通り地区の対象範囲 ※この地図は、東京都知事の承認を受け、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成(承認番号)30都市基交著第21号

■江戸 中山道の宿場として

江戸時代、板橋宿は、江戸と京都を内陸経由で結ぶ街道「中山道」六十九次のうち、江戸から数えて第一の宿駅とされ、大都市江戸の出入り口として交通・流通などの面で重要な役割を担っていました。

長さおよそ 1.7km の宿場には、大小 54 軒の旅籠屋が建ち並んでおり、南から平尾宿・中宿・上宿に三分されていました。

当地区は平尾宿に位置しており、脇本陣（豊田家）が置かれていました。

また、脇往還として江戸側から分岐する川越街道は、平尾宿を起点としており、平尾追分と呼ばれていました。

■明治・大正 花街の賑わい

明治に入ると、宿駅制度は廃止されましたが、板橋宿は徒歩旅行者で盛行を保っており、貸座敷業や料理店が営まれていました。

本陣・脇本陣の制度は消滅しますが、脇本陣（豊田家）には、警視庁第四方面の出張所が置かれるなど、地域の重要な役割を果たしました。

明治 6 年（1873）、観明寺の住職が成田山の不動尊を勧請して縁日を開きます。この「お不動さま」が「不動通り商店街」の名称の由来です。

明治 17 年（1884）に板橋大火があり、旧板橋宿の中心部民家約 300 戸を類焼しました。不動通り周辺は被災を免れましたが、宿場は中心部を失い、さらに翌年には品川～赤羽間に鉄道開通したことで、徐々に客足が遠いていくこととなり、花街から暮らしの街へと変化していきます。

一方、加賀下屋敷に陸軍の火薬製造所が設けられたことから、貸座敷業や料理店は明治末頃まで営まれていました。

■昭和 インフラ整備による構造の変化

昭和に入ると、千川上水が暗渠化され、インフラ整備が進んでいきます。昭和 4 年（1929）、市電（路面電車）が開通し、板橋五丁目（現在の板橋三丁目りそな銀行付近）に停留場が設置されました。

一方、昭和 14 年（1939）には戦争が始まり、大空襲により区役所などの主要建物が消失。不動通り沿道に大きな被害はありませんでしたが、東光寺の周辺は焼け野原となりました。焼夷弾が落ちた傷が幹に残る銀杏が今も境内にあります。長く続いた戦争も、昭和 20 年に終戦を迎えました。

戦後、高度成長期に入り、昭和 39 年（1964）の東京オリンピックを機に街が大きく変わって行きました。昭和 43 年（1968）には、国道 17 号の交通量が増え、市電が廃止となり、都営地下鉄 6 号線（現在の三田線）に替わりました。

昭和 47 年（1972）、板橋遊郭の中でも最大規模を誇った新藤楼の高楼建築が解体されました。玄関部分が板橋区立郷土資料館（赤塚）に保存されています。

翌年の昭和 48 年（1973）、商店街の名称を「板橋宿不動通り商店街」に変更しました。

また、昭和 52（1977）年には、首都高速 5 号線が開通します。この時代に、平尾宿は分断されることとなり、景観の構造が大きく変わって行きました。



木曾街道六十九次「木曾街道 板橋之驛」(深斎英泉)



警視庁第四方面の出張所が置かれていた明治 9 年の豊田家 写真提供①



現存する旧安田銀行の建物も写る大正 12 年頃の街並み 写真提供①



都立九中（現北園高校）から見た中山道方面の焼け跡 写真提供①



戦後、病院、学生アパートと変遷し解体された新藤楼 写真提供①



昭和 41 年、国道 17 号を走る最後の市電 写真提供①

“お縁日”の賑わい

明治6年に観明寺の住職によって開かれた縁日は、“お縁日”と呼ばれ、不動通りのまちの歴史を語る上では欠かせないものです。

昭和30年前後の縁日は、テレビなどの娯楽や冷蔵庫も少なかった時代に、夜11頃まで多くの人出で賑わい、毎月1・7・15・28日の4回も開かれていました。

当時の縁日は、照明にカーバイドランプという炭化カルシウムの塊を燃料にしたものが利用されていました。暖かい光の色で、燃える時に独特の匂いがあったそうです。

現在の屋台で使われる発電機の音はせず、静かな環境に、下駄の音や人々の声、歌う飴屋や瀬戸物屋、金魚屋、植木屋など、多種多様な屋台から聞こえる楽しい口上が不動通りの賑わいを作っていました。

今も開催されている不動通りの名物“朝市”

現在、毎月第3日曜日に開催されている朝市は、昭和50年頃に始まり、40年以上の歴史があります。

各商店が路上にテーブルや台を出してお買い得品を販売したり、採れたての野菜が並ぶなど、早朝から多くの人出で賑わってきました。

朝市の名物になっているお餅つきは、商店街の男性陣が杵と臼で餅をつき、熱々の餅を女性陣が素早く丸めて、あんこやきな粉、大根おろしなどの味付けで販売されます。つきたてのお餅を買い求める人の行列は、今も続く不動通り商店街の賑わいの風景です。



多くの人出で賑わう昭和30年頃の夏の夜の縁日 写真提供①



昭和53年の朝市の様子 写真提供①



平成元年の朝市の様子 写真提供①

■平成 防災まちづくりと高層化

平成に入り、旧板橋宿では、老朽住宅等の建て替えや公共施設を整備し、住環境の改善と防災性を向上する住宅市街地総合整備事業が始まります。

平成7年(1995)の阪神淡路大震災を契機に、防災への意識が高まり、狭い道路や木造住宅が密集する当地区においても、平成18年から防災街区整備事業として、老朽化した建物の共同化・道路・公園・防災設備の整備が計画され、平成22年(2010)にリビングタワー板橋、その翌年には板橋三丁目縁宿広場、区画道路1号が完成しました。

また、平成21年(2009)から5年に渡り、板橋三丁目・仲宿の全域、本町の一部を含む「旧板橋宿周辺地区」で、地区計画が検討され、道路や建築物等に関する都市計画のルールが定められました。

こうした防災まちづくりの取り組みが進む中、2011年(平成23年)、東日本大震災が発生しました。その後、老朽化した建物等の建て替えや高層化が進み、地域の歴史を伝える建物や昔ながらの小さな店舗が連なる景観は急速に失われつつあります。

一方、平成17(2005)年には、いたばし観光センターが開設され、旧板橋宿の歴史などの観光情報を発信する情報拠点が整備されました。

平成27年(2015)には、板橋宿不動通り商店街無電柱化事業が完了し、青空が印象的な商店街が、暮らしを支え、旧板橋宿を訪れる方を迎える地域の景観となっています。



防災街区整備事業で整備された板橋三丁目縁宿広場



平成17年に開設された観光拠点のいたばし観光センター

<写真提供>
①板橋区公文書館

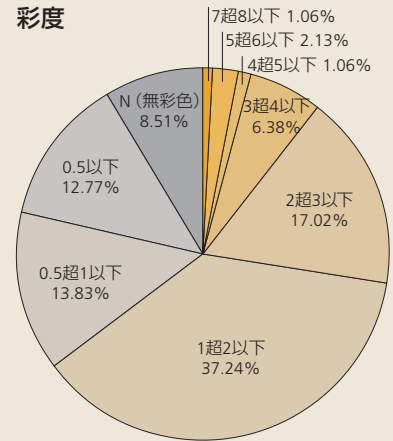
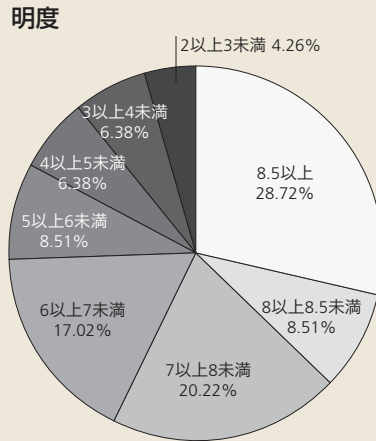
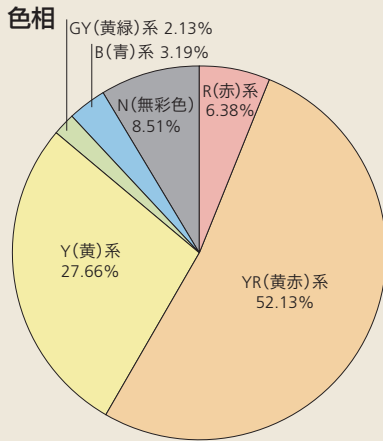
2. 地区の現況における魅力と課題



(1) 現況の把握

本プランの検討にあたって、建物や屋外広告物、公共施設の現況調査を行いました。

建築物について



色彩の特徴

- ・温もりが感じられる暖色系の落ち着いた色彩が街並みの基調となっており、寒色系の建物はごくわずかです。

様式や規模など

- ・和洋折衷様式の戦前に建築された建物、看板建築や開口部がユニークな三階建て併用住宅の昭和の建物など、レトロな建物が見られます。
- ・近年では建て替えや高層化した店舗併用共同住宅の立地が進み、多様な様式や規模の建物が混在しています。

軒を連ねる店舗

- ・昔ながらの小さな店舗の連なりを基本に、新しい大規模な店舗併用共同住宅の1階にも店舗が入り、商店の軒が連なる景観が形成されています。
- ・シャッターを下ろした店舗や空き地、住居専用住宅への建て替えが点在し、連続性の保全が課題となっています。



屋外広告物について

大きさ

- ・昔ながらの小さな店舗や旧中山道の道幅のスケールに合った小規模な広告物が多く見られます。

高さ・位置

- ・歩行者の目線に近い低層部に集中して表示されており、中高層部での表示が少なく、統一感や連続性のある街並みを創出しています。
- ・ほとんどのものが敷地内に設置されていますが、一部に道路上に掲出されているものもあり、通行者の妨げとなっている面もあります。

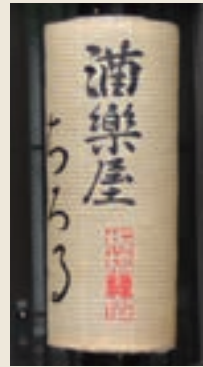
色彩

- ・外壁と共通性のある色彩やテーマカラーを用いて色数を抑えるなど、質の高い広告物が多く見られます。



表示内容など

- ・商店街のキャラクターであるラッピーの置き看板が各店舗の軒先に見られ、街の魅力となっています。
- ・板橋宿の歴史を感じさせる風格ある木製看板や提灯、暖簾を用いた和風の演出も見られます。



公共施設について

電線地中化・美装化

- ・無電柱化事業により、電線類が地中化されており、青空が印象的な商店街の景観を創り出しています。
- ・歩道の舗装は、従前にレンガ材が用いられていたことから、そのイメージを引き継ぐレンガ色のインターロッキングが採用されています。

アーチ・街路灯

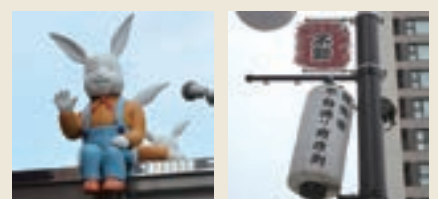
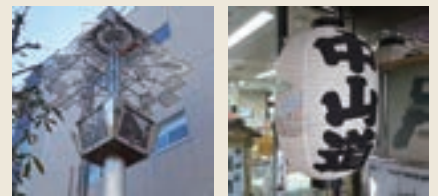
- ・商店街のアーチや街路灯などの柱類には、ツヤ感を抑えた仕上げのステンレスが共通して用いられています。
- ・統一感がある一方で、現代的でクールな印象を持つ素材のため、板橋宿としての歴史性を演出しにくい面もあります。

和風の演出

- ・街路灯の下部は、石状吹き付け仕上げとなっており、和風の書体で「板橋宿不動通り」と書かれています。
- ・祭事などでは、街路灯に提灯が設置されます。また、いたばし観光センターでも、提灯や和風の看板を用いて、板橋宿らしさを表しています。

キャラクター・シンボルマークなど

- ・アーチや街路灯などに、商店街のキャラクター「ラッピー」が用いられており、親しみやすく楽しい雰囲気演出しています。
- ・街路灯には「不動」のマークが用いられており、不動通りの場所性を示しています。
- ・アーチや案内板などに、切り絵作家（佐藤廣士氏）により地域の今昔の風景が描かれています。



景観まちカルテによる分析

建築物や公共施設の1つ1つについて、「景観まちカルテ」を作成し、外観の構成要素などの現状を記録するとともに、景観充実のためのアイデア等を考察しました。



(2) 意向の把握

勉強会

本プランの検討にあたって、勉強会で地域の景観のあり方やルールなどを話し合いました。

- 2017.10.15 第1回 まち歩きと意見交換会
- 2018. 2.18 第2回 魅力再発見マップづくり
- 2018. 5.20 第3回 ラッピーフェスティバルの景観デザイン「バナーフラッグのデザインを考えよう！」
- 2018. 7.15 第4回 板橋宿不動通り地区景観まちづくりプラン「まちのルールを考えよう！」
- 2018.12.16 第5回 景観まちづくりプランを点検しよう！



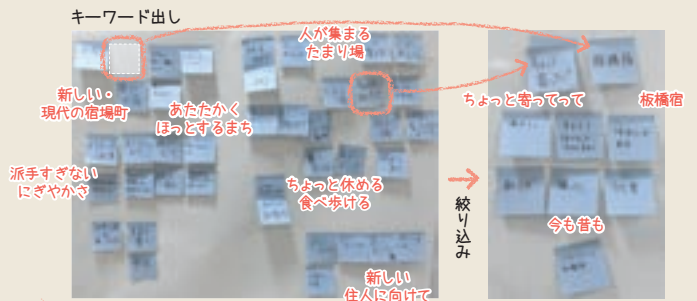
まち歩きで出された意見をマップに整理したもの（第1回勉強会）



現況の写真を用いて地域の魅力と課題を抽出（第2回勉強会）



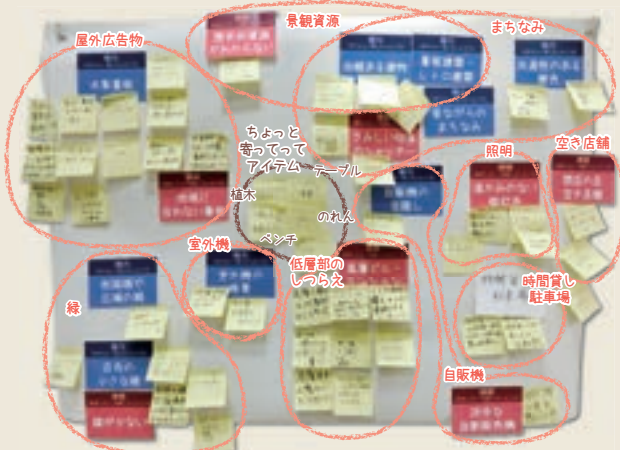
フラッグのデザインを通して地域にふさわしい表現を考察（第3回勉強会）



みんなで考えた景観の方向性

ちょっと寄ってって 板橋宿

将来の不動通りの景観の方向性を議論（第4回勉強会）



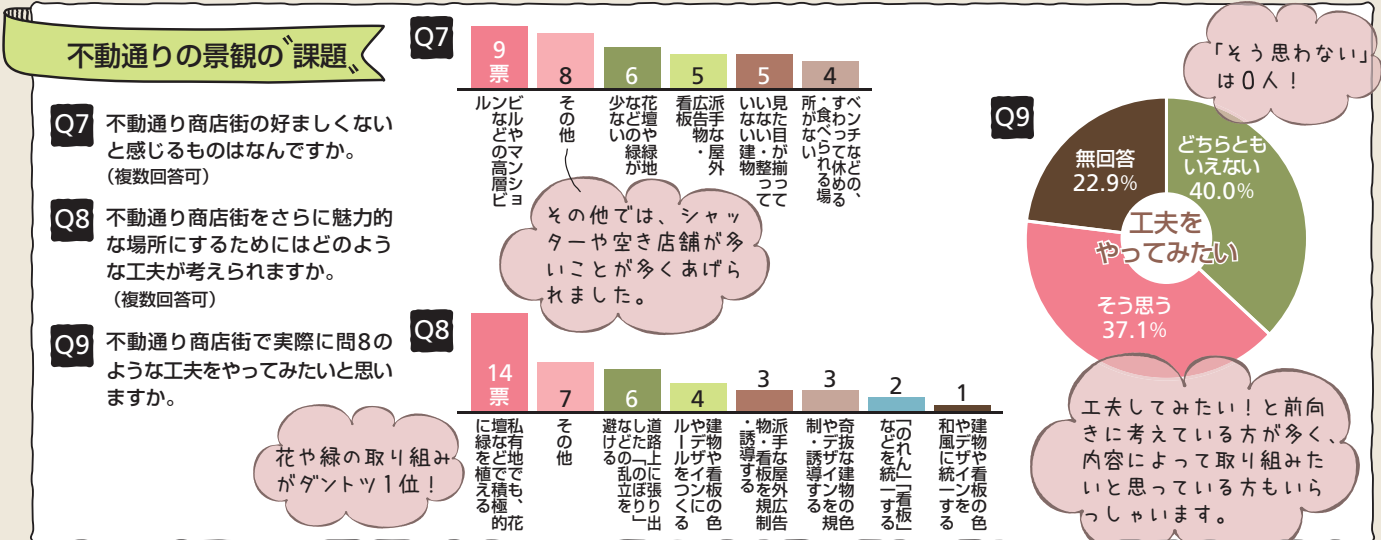
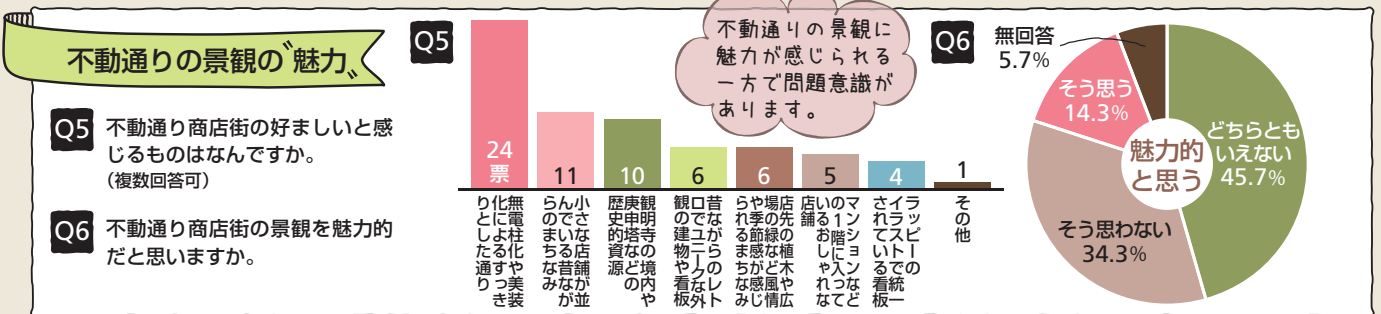
地域の魅力をいかし、課題を解決するルールを検討（第4回勉強会）



景観まちづくりプラン素案を点検し、これまでの活動を振り返り(第5回勉強会)

アンケート調査

本プランの検討にあたって、アンケート調査を実施し、不動通り商店街の皆さんの景観まちづくりに関するご意見をお聞きしました。不動通り商店街をさらに魅力的な場所にするための取り組みについては、多くの方が前向きに考えていることがわかりました。



ヒアリング調査

本プランの検討にあたって、地域の歴史に詳しい方や、お仕事などで勉強会に参加できない方などを対象に、景観まちづくりに関するヒアリング調査を実施しました。

昔の不動通り商店街の景観についての記憶やエピソードなど、ヒアリングでお聞きした貴重なお話は、景観まちづくりニュースでご紹介するとともに、本書P.2～P.3「まちの成り立ち」などに反映しました。



ヒアリングでお聞きしたお話の一部を紹介した景観まちづくりニュース vol.5



ヒアリングの様子

(3) 板橋宿不動通り地区の「魅力」と「課題」

板橋宿

景観調査や勉強会、アンケートの結果から、当地区の魅力と課題について、次のような共通のキーワードが挙げられました。

魅力 守りたい・残したいところ

- ・電線地中化・美化化
- ・歴史的資源
- ・看板建築・レトロ建築
- ・昔ながらのまちなみ
- ・店先の小さな緑
- ・街路樹や広場の緑
- ・共通性のある壁色
- ・テントの連続性
- ・由緒ある建物
- ・木製看板
- ・室外機の修景
- ・自販機の修景



課題 伸ばしたい・改善したいところ

- ・高層ビル・マンション
- ・お客さんが少ない
- ・さみしい印象のシャッター
- ・閉店の店、空き店舗
- ・時間貸し駐車場
- ・緑が少ない
- ・座れるところが少ない
- ・温かみのない街灯色
- ・歴史的資源がわからない
- ・宿場を感じにくい
- ・地域に合わない看板
- ・歩道に出ている商品
- ・道路上の看板・のぼり
- ・老朽化した看板
- ・派手な自動販売機

3. 景観まちづくりの方向性

(1) 将来のまちの景観の方向性



将来のまちの景観の方向性を「ちょっと寄ってって 板橋宿」と定めることとしました。この言葉には、めざしたい将来のまちの景観の方向性と思いが込められています。

将来のまちの景観の方向性

ちょっと寄ってって 板橋宿

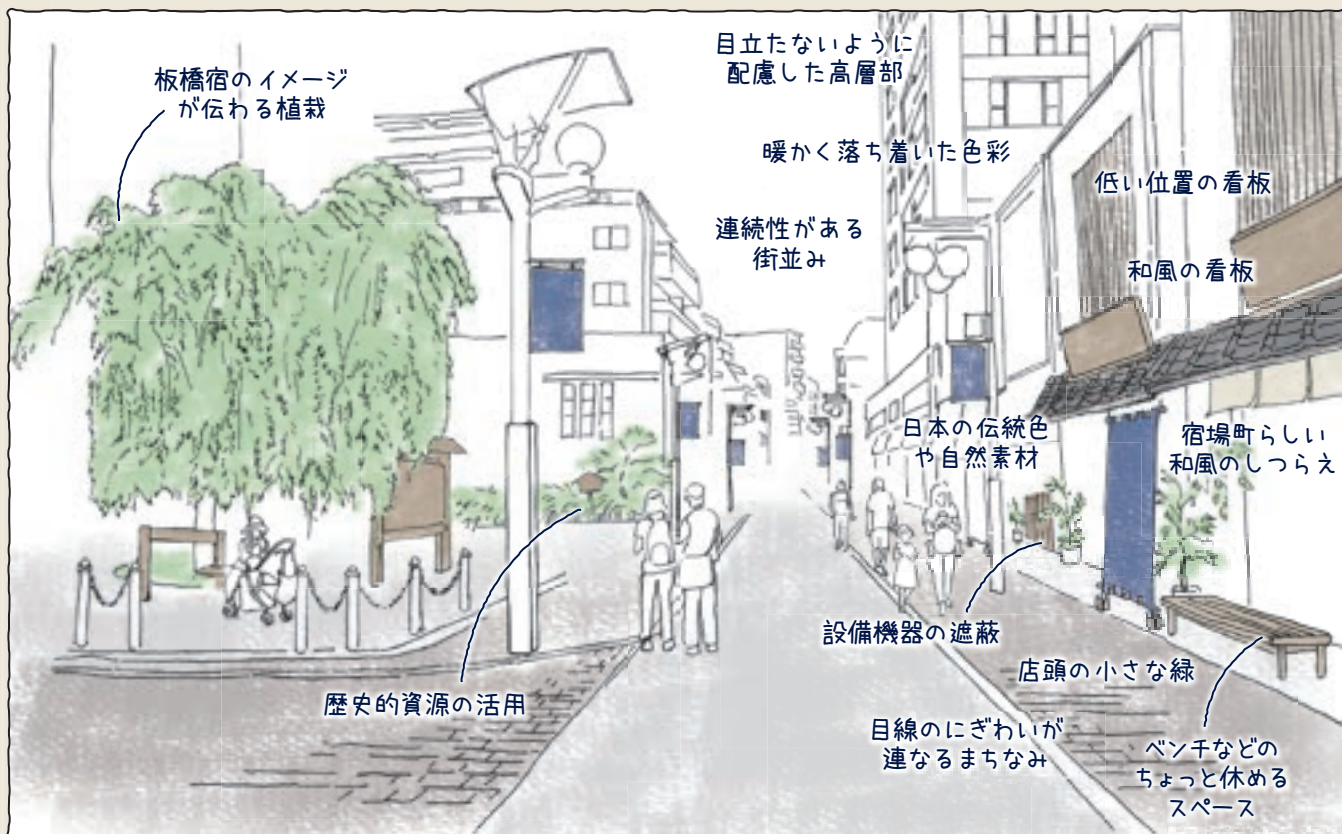
ちょっと寄ってみたいくなる景観とは ...

- 人が集い賑わいが溢れる景観
- もてなしが感じられる景観
- ほっとする心地よい景観
- 商店が連なるまちなみ景観

板橋宿の面影を感じさせる景観とは ...

- 板橋宿の歴史を伝える景観
- 和を取り入れた風情ある景観
- 歴史の積層を物語るレトロな景観

めざしたい将来のまちの景観のイメージ



(2) テーマ別の方向性

まちの魅力を高め、課題を改善するために、テーマ別の景観に整理して、方向性を定めます。

7つのテーマ別の方向性

人が集い賑わいが溢れる景観

【取り組みの例】

- ・既存イベントの活用（朝市等）
- ・観光の推進（マップ、まち歩き）
- ・交流（江戸四宿との交流や連携）



もてなしが感じられる景観

【取り組みの例】

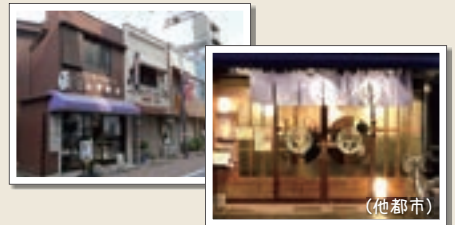
- ・見せたくないものの修景（空調設備、ゴミ置き場、自動販売機等）
- ・店先の緑化



ほっとする心地よい景観

【取り組みの例】

- ・暖かく穏やかな建物の色彩ルール
- ・温かみのある照明による夜間演出
- ・節度ある広告物の色彩や表現



商店が連なるまちなみ景観

【取り組みの例】

- ・軒が連なる景観の保全
- ・空き店舗の有効活用
- ・シャッターの工夫



板橋宿の歴史を伝える景観

【取り組みの例】

- ・公共サインの設置
- ・和の外構や植栽の活用
- ・板橋宿の名称の活用



和を取り入れた風情ある景観

【取り組みの例】

- ・暖簾・日よけ幕等の活用
- ・木材等の自然素材の活用
- ・リノベーションによる和の演出



歴史の積層を物語るレトロな景観

【取り組みの例】

- ・看板建築の資源化
- ・レトロ建築の保全活用
- ・歴史的資源の保全活用



4. 景観まちづくりの具体化に向けて

(1) 資源を活用した景観まちづくり



朝市等のイベント、歴史的資源、看板建築・レトロ建築等、既存の景観が資源であることを再認識し、これらの資源を活用した景観まちづくりに取り組みます。

イベントの活用

- ・朝市などのイベントを活用し、人が集う賑わいのある景観をつくれます。
- ・朝市を人情味あふれる不動通りの名物として、観光資源にします。
- ・自然素材などを用いた風情のある演出で、「中山道板橋宿」としての情報発信をします。
- ・マルシェなどの洒落た演出を取り入れて、住民の交流の場とします。



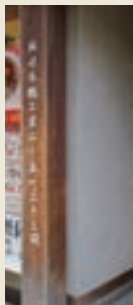
多くの人で賑わう不動通りの朝市の様子



観明寺の境内で開催されたえんじゅく市の様子

歴史的資源の活用

- ・不動産取り商店街全体が旧中山道の旧跡です。
- ・「中山道板橋宿」の名称を店名などに意識的に用います。
- ・歴史的資源を想起させる演出で、板橋宿らしい景観を創出します。
- ・歴史的資源を保存し、その周辺は歴史的風情や連続性が感じられる景観づくりをします。



板橋宿の名称を店舗名に用いた演出の例



歴史的資源との連続性に配慮した例(他都市)

看板建築・レトロ建築の活用

- ・小さな店舗が連なる昔ながらの景観が不動通りの魅力です。
- ・歴史の積層を物語る古い建物を保存し、景観資源とします。
- ・看板建築・レトロ建築の保存再生や活用のための取り組みを検討します。
- ・建て替えを検討する場合は、まちの記憶を引き継ぐ方法を検討します。



レトロ建築をカフェとして活用した例(他都市)



地域に残る魅力的な看板建築やレトロ建築
(イラスト：板橋三丁目食堂)

(2) 自ら取り組む景観まちづくり



できるところから取り組むステップバイステップの景観まちづくり

地域主体となった景観まちづくりを持続するために、各店舗ができるところから気軽に取り組むこととし、ステップに応じた景観まちづくりを行います。

- 3 しつらえる
- 2 ととのえる
- 1 なじませる

低予算ですぐに対応できる取り組み



空調室外機やメーター等を修景した例(他都市)



飲料ケース置場をルーバーで隠した飲食店(他都市)



和風の鉢植えを用いた宿場町らしい演出(他都市)

対象：お客さんに見てほしいもの見せたくないもの

店舗前に設置された設備機器、店舗運営用品、使用していない季節用品、枯れてしまった鉢植えなどを遮へいしたり片付けるなどして見えにくくし、もてなしの環境の素地を確保するレベルの取り組み

- 3 しつらえる
- 2 ととのえる
- 1 なじませる

メンテナンスや更新時などに意識して行う取り組み



外壁や日よけを周囲と調和する色彩にした例



看板の位置や大きさを揃えた商店街(他都市)



各店舗が共通して看板に木材を用いた例(他都市)

対象：周囲とあわせることでまち全体の雰囲気の良いもの

まちなみ景観の形成を意識し、周辺との調和の視点から店舗の色彩や看板の位置などを相互調整していくレベルの取り組み

- 3 しつらえる
- 2 ととのえる
- 1 なじませる

景観まちづくりの方向性を地域で共有して行う取り組み



和のテイストで宿場町らしさを演出した例(他都市)



木材などの自然素材を活用した商品陳列(他都市)



マンションの1階を和風の外構とした例(他都市)

対象：宿場町の雰囲気を再生しお客さんに発信するもの

景観まちづくりの方向性やテーマに即して、歴史的な雰囲気や創造性を感じさせるデザイン要素を添加していくレベルの取り組み

(3) 協働による景観まちづくり



景観まちづくりに関する区の制度を活用し、板橋区との協働による景観まちづくりに取り組みます。

景観まちづくりルール策定

板橋区は、建物や屋外広告物等に関する景観のルールづくりに地域主体で取り組むことを支援しています。
また、地域住民が主体となって組織された景観まちづくり団体が、区の認定を受けると、地域独自の景観のルールを定めた、板橋区景観条例に基づく「地域デザイン指針」を策定することができます。

新築や改修時のデザイン支援

建築物等の新築や改修の届出を行う際に、景観形成基準に基づく助言・指導等として、専門家によるデザイン相談などの支援を受けることができます。

景観形成重点地区の指定

特に良好な景観の形成を図る必要があると認める区域について、「景観形成重点地区」に指定しています。
景観形成重点地区では、地域独自の景観のルールを板橋区景観計画に位置付けることができ、そのルールの運用を、区が届出制度によって行います。

景観資源の保全と地区的な取り組みの支援

特に重要な景観資源や、大切にしている景観について、所有者及び関係機関の意向を踏まえ、景観重要建造物・景観重要樹木制度、文化財制度等の有効な保全制度を活用し、守り育てていくことができます。



旧粕谷家(東の隠居)住宅
(板橋区景観重要建造物)



旧田中家住宅
(板橋区景観重要建造物)



川越街道五本けやしき
(板橋区景観重要樹木)

景観形成重点地区では、全ての規模の建築物等で、景観のルールへの適合がチェックされます。

届出対象行為と届出規模

一定規模以上の建築物等の新築や改修を行う場合は、事前に区に届出を行う必要があります。

種別	届出対象行為	一般地域 (景観形成重点地区以外の板橋区全域)	景観形成重点地区 板橋崖線軸地区、石神井川軸地区、 加賀一・二丁目地区、常盤台一丁目・二丁目地区
建築物	新築、増築、改築、移転、 外観を変更することとなる修繕、模様替、色彩の変更、 景観計画の基準に適合していない物件の同色の塗替	高さが 20m 以上、 延床面積が 2,000 m ² 以上 又は 敷地面積が 1,000 m ² 以上	規模に関係なく、全ての行為
工作物	新設、増築、改築、移転、 外観を変更することとなる修繕、模様替、色彩の変更、 景観計画の基準に適合していない物件の同色の塗替	高さ 20m 以上 又は 築造面積 2,000 m ² 以上	規模に関係なく、全ての行為
開発行為		開発区域面積 500 m ² 以上	開発区域面積 500 m ² 以上
土地造成	墓地の造成	規模に関係なく、すべての行為	規模に関係なく、すべての行為
	資材置場の造成	—	規模に関係なく、すべての行為
	駐車場の造成	—	収容能力 20 台以上の自動車駐車場 (常盤台一丁目・二丁目地区のみ 5 台以上)
木竹伐採	—	—	木竹の存する一団の敷地面積 200 m ² 以上 (板橋崖線軸地区のみ)
物件堆積	屋外における土石・廃棄物・再生資源・その他の物件の堆積	—	堆積の用に供する土地面積 500m ² 以上、又は堆積高さ 5m 以上 (常盤台一丁目・二丁目地区のみ規模に関係なく全ての行為)

板橋宿不動通り地区 景観まちづくりルール(案)

配置	旧中山道の道幅に合ったスケールを意識し、壁面位置や軒の高さの連続性に配慮します。
	道路、公園などの公共空間に隣接する建築物は、公共空間側へオープンスペースを設けるなど、公共空間と一体となった街並みの形成に配慮します。
高さ・規模	敷地内や周辺に、歴史的な遺構や残すべき景観資源がある場合は、これらを極力保全するとともに、これらを生かした建築物の配置とします。
	旧中山道を歩く歩行者からの見え方に配慮し、周辺の建築物の高さ・規模との調和を図ります。
形態・意匠	低層部では、宿場町の面影が感じられる街並みの連続性に配慮します。
	高層部は、落ち着いた色彩やデザインとし、極力目立たないように配慮します。
	1・2階は、商店街との連続性に配慮したしつらえとします。
	1・2階は、板橋宿としての歴史に配慮したデザインとします。
色彩	店舗入口は、宿場町らしいしつらえとなるよう努めます。
	瓦屋根や格子板など、和風の意匠を用いて宿場町の統一感を出すよう努めます。
	伝統的に用いられてきた和の建材と類似する暖かく落ち着いた色彩を基調とします。
	外壁の仕上げは、出来るだけ昔ながらのものを使用するよう努めます。
公開空地・外構・緑化等	外壁と広告物の色彩の調和に配慮します。
	出来るだけ店頭に小さな緑を置きます。
	新築の建物は、出来る限り植え込みをつくります。
	宿場町や街道のイメージを伝えられるよう植栽を工夫します。
	マンションは、入口部分や塀などの外構を和風とするなど、宿場町や街道のイメージに配慮した外構とします。
緑化等	マンションや店先には、にぎわいに配慮し、ベンチを設置するなど工夫します。
	ベンチなどを設置する際には、プランターなどの緑を組み合わせ、うるおいのあるちょっと休める空間をつくるよう努めます。

伝統的な建材の色彩の例

地域で昔から慣用されてきた色彩です。



洋風の店舗や業種でも、自然素材を用いることで和風の街並みにも調和する外観となります。



中山道板橋宿の風情を感じさせる和の植栽



角地に街道をイメージさせる松を植えた例(他都市)

旧中山道らしいスケールの街並みと連続性



街路灯より高い中高層部が落ち着いていることで視線に近い低層部のにぎわいが引き立っている街並み

和を取り入れた小さな緑の例



洋種の植物でも、鉢や箱を工夫すると和風の雰囲気になります。

駐車場などの付属物	駐車場は、植栽で車を隠すなど、通りから目立たないように努めます。
	時間貸し駐車場は、設備類の色彩や看板のデザインを街並みに調和するものとするよう配慮します。
	室外機などの設備機器は、外から見えない位置に設置するよう努めます。
	室外機などの設備機器が、やむを得ず外から見える場合は木質系ルーバーなどでカバーするなど工夫します。
照明	店先に暖色系のあかりを置くなど、夜を演出する照明に配慮します。
	店舗の照明は温かみのある電球色を基本とします。
屋外広告物	位置 屋外広告物は、低い位置（街灯ラインの下）に集約します。
	色彩 新規に設置する看板類は、伝統色を使用するよう努めます。
	日よけテントは、和風の色彩を基本とし、街並みに統一感を出すよう配慮します。
	素材 木材や自然素材などの質感豊かな素材を用いるよう努めます。木製看板の採用を検討します。
	表示 宿場町らしい和風のデザインや落ち着きに配慮します。看板の色、素材、書体、設置位置を揃えるなど、まとまりに配慮します。
	店の内容をシンボル化、デザイン化し、わかりやすく表示するよう努めます。光の点滅やデジタルサイネージなどの映像装置を用いた表示を避け、宿場町らしい景観に配慮します。



室外機を竹などの自然素材で修景した例（他都市）



東光寺の堀に調和する落ち着いた色彩の自動販売機



暖かい光が灯る旧宿場町の照明（他都市）

屋外広告物に推奨する素材や色彩の例



屋外広告物に推奨する伝統色の例

きなりいろ 生成色 10YR9.0/1.0 [19-90B]	ぎんねず 銀鼠 N6.5 [N-65]	べんがらいろ 弁柄色 7.5R3.0/6.0 [07-30L]	こうろぜん 黄檗染 10YR4.0/6.0 [19-40L]	こけいろ 苔色 2.5GY5.0/6.0 [32-50L]	あいいろ 藍色 2.5PB3.0/4.0 [72-30H]
ぞうげいろ 象牙色 2.5Y8.5/1.5 [22-85C]	にびいろ 鈍色 N4.0 [N-40]	れんがいろ 煉瓦色 10R4.0/6.0 [09-40L]	けんぼういろ 憲房色 10YR3.0/1.0 [19-30B]	まつばいろ 松葉色 7.5GY5.0/4.0 [37-50H]	てつこん 鉄紺 5PB2.0/2.0 [75-20D]
すないろ 砂色 2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	すみいろ 墨色 N2.0 [N-20]	きん茶 金茶 10YR6.0/10.0 [19-60T]	からしいろ 芥子色 2.5Y7.0/6.0 [22-70L]	ちとせみどり 千歳緑 2.5G3.0/4.0 [42-30H]	なすこん 茄子紺 7.5P2.5/2.5

日本の伝統色の近似値を、記号はマンセル値、[]内は日本塗料工業会標準色見本番号により表しています。

素材の風合いで暖かい雰囲気演出

- ・木材や綿布、麻など、落ち着いた印象の素材を選ぶようにします。
- ・プラスチックや化繊などの素材を用いる場合は、マットな質感など自然素材と共通性のある質感のものを選びます。

歩行者が、近くから店舗等を見るため、素材や質感の良し悪しが景観の印象に大きく影響します！

(4) 板橋宿不動通り地区のPR

板橋宿

江戸四宿との交流や連携

板橋宿不動通り地区の景観まちづくりを継続して進めていくためには、PR活動や多くの方の協力が必要となります。

そのために、江戸四宿間での交流や連携を行うなど、他の宿場町との協力関係を築くことも大切です。



品川宿で定期的に行われている景観会議の様子



平成31年2月のいたばし景観写真展「板橋宿不動通りと江戸四宿」の様子

江戸四宿とは？

江戸時代、日本橋を起点とした五街道の宿場町のうち、それぞれ最も江戸に近い宿の総称です。板橋宿(中山道)の他に、品川宿(東海道)、千住宿(日光・奥州街道)、内藤新宿(甲州街道)があります。



東海道五十三次之内「品川」(歌川広重)



東海道五十三次之内「品川」(歌川広重)



名所江戸百景「千住の大はし」(歌川広重)



名所江戸百景「四ッ谷内藤新宿」(歌川広重)

5. 景観まちづくりの記録



(1) フラン検討の経緯

平成 29 年	
10 月	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回勉強会 「景観まち歩きと意見交換会」開催
11 月	<ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくりニュース vol.1 発行 景観調査の実施 景観まちカルテの作成
12 月	<ul style="list-style-type: none"> 商店街アンケート実施



第 1 回勉強会の景観まち歩きの様子

平成 30 年	
2 月	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 回勉強会 ワークショップ 「魅力再発見マップづくり」開催
4 月	<ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくりニュース vol.2 発行 品川宿の街並みと景観会議の見学
5 月	<ul style="list-style-type: none"> 第 3 回勉強会 ワークショップ ラッピーフェスティバルの景観デザイン「バナーフラッグのデザインを考えよう」開催
7 月	<ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくりニュース vol.3 発行
	<ul style="list-style-type: none"> 第 4 回勉強会 ワークショップ 板橋宿不動通り地区景観まちづくりプラン「まちのルールを考えよう！」開催
	<ul style="list-style-type: none"> ラッピーフェスティバル みんなで考えたバナーフラッグの取り付け ブース展示 (取り組み紹介とラッピーの顔出しパネル)
9 月	<ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくりニュース vol.4 発行 ヒアリング実施
	<ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくりニュース vol.5 発行
11 月	<ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくりニュース vol.5 発行
12 月	<ul style="list-style-type: none"> 第 5 回勉強会 意見交換会 「景観まちづくりプランを点検しよう！」開催
2 月	<ul style="list-style-type: none"> いたばし景観写真展「板橋宿不動通りと江戸四宿」 (板橋区役所 1 階区民イベントスペースにて)
	<ul style="list-style-type: none"> 景観まちづくりニュース vol.6 発行

景観まちづくりプラン骨子の検討

景観まちづくりプラン素案の検討



第 2 回勉強会の魅力再発見マップづくりの様子



第 3 回勉強会でデザインを考えたバナーフラッグ



第 5 回勉強会の様子



板橋宿不動通り地区景観まちづくりプラン(素案)

平成31年3月 板橋宿不動通り地区景観まちづくり勉強会
協力 板橋宿不動通り商店街振興組合・板橋区